

発行 北東アジア学会事務局

京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学経済学部サービスラーニングセンター内 〒612-8577

電話 075-645-2090 / FAX 075-645-2101 / 電子メール jsrs@mirec.org / URL http://www.mirec.org/jsrs/

今号のヘッドライン

[1 面]	第 14 回学術研究大会について【第 1 報】	[4 面]	北東アジア学会優秀論文賞の推薦について
[2 面]	第 6 期役員選挙について	[4 面]	総会・理事会・常任理事会議事 第 5 期第 7 回常任理事会報告
[2 面]	第 13 回学術研究大会報告	[5 面]	会員情報
[3 面]	韓国東北亜経済学会参加報告	[6 面]	事務局からのお知らせ
[4 面]	北東アジア学会学生奨励賞授与について		

第 14 回学術研究大会について【第 1 報】

北東アジア学会(旧:環日本海学会)第 14 回学術研究大会へのお誘い

北東アジア学会第 14 回学術研究大会は、本年 9 月 27-28 日に山形大学小白川キャンパスで開催されます。大会テーマは「地域主義と地域協力の可能性 近代国家体系への挑戦」です。

この研究大会では、基調講演としてチェコ科学アカデミー社会学研究所のハウジヴィチカ氏を招聘し、第二次世界大戦以来の歴史問題に「和解宣言」という形で決着をみたチェコとドイツとの関係についての講演を予定しています。ハウジヴィチカ氏は、長年にわたりユーロリージョンの住民の意識調査も行っており、北東アジアにおける地域協力を考える際に、参考になるかと思われます。

第 14 回学術研究大会実行委員会 高橋和(山形大学)

また、今回は大会企画分科会という新しい企画を設けました。本学会では、若い研究者に発表の機会を提供するという目的を掲げており、これまでも分科会には多くの若手研究者の参加を得てきました。今回はそれをさらに発展させて、個々の研究報告のみならず研究テーマごとに議論の時間を取ることになりました。若い研究者の研究の進展に寄与できればと思っています。

山形の美味しいお酒と蕎麦で歓迎したいと思います。お忙しい時期ではありますが、ぜひご参加いただき、研究を深め、交流を深める機会として利用してください。

プログラムの概要

9月27日(土)

時間	プログラム	ところ
12:30-13:30	レジストレーション	
13:30-15:00	基調講演「チェコ人とドイツ人 地域協力の拡大は相互理解にどのように寄与 講師 ヴァーツラフ・ハウジヴィチカ (Vaclav Houzvicke) (チェコ科学アカデミー・社会学研究所主任研究員)	
15:30-18:00	国際シンポジウム「地域主義と地域協力 近代国家体系への挑戦」 パネリスト 調整中 コーディネータ 調整中	
18:30-20:00	懇親会(会費制)	

9月28日(日)

時間	プログラム	ところ
9:30-12:00	自由論題分科会・大会企画分科会	各教室
12:00-13:30	2009年度会員総会・北東アジア学会優秀論文賞第1回表彰式・昼食	
13:30-17:00	自由論題分科会・大会企画分科会 大会企画分科会共通テーマ「北東アジアの連続と変容」 第*分科会:国際行為体とサブリージョンの形成(行為体と空間秩序) 第*分科会:地域主義と北東アジア「秩序」(認識と時間軸) 第*分科会:国際交流と空間創造(認識と空間形成) 第*分科会:東アジア地域内の比較・相関(空間比較)	各教室

- 詳細については、決まり次第、ご案内申し上げます。
- 大会実行委員会では、自由論題分科会、大会企画分科会での報告エントリーを、2008年6月27日まで受け付けています。大会ホームページ (<http://www.mirec.org/jsrs/conference2008.html>) からエントリーシートをダウンロードし、必要事項を記入の上、大会実行委員会までメール添付で送信してください。

< 連絡先 >

北東アジア学会第14回学術研究大会実行委員会事務局
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部 担当 高橋和
電話 023-628-4283 ファックス
E-mail nars2008@mirec.org (大会代表メールアドレス)

第6期役員選挙について

選挙管理委員会の設置について

現在の役員(第5期)の任期満了(2008年9月28日まで)にともなう役員改選を行なうべく、第5期第7回常任理事会において、雨宮洋司会員(前・富山大学)を委員長、森岡裕会員(富山大学)を委員とする選挙管理委員会を設置することが了承されました。

選挙公示

第6期役員選挙管理委員会 委員長 雨宮洋司(前・富山大学)

「北東アジア学会役員選出規定」および「北東アジア学会理事選挙実施細則」に基づき、第6期役員選挙を行う。

投票方法

1. 「つうしん」今号に同封の投票用紙(被選挙権を有する会員の名列表)を用いて、本学会第6期理事に推す者20名以内について、投票用紙所定欄に 印を付けてください。
2. 「つうしん」今号に同封の返信用封筒に厳封の上、5月31日までに投函してください。なお、返信にかかる郵送料は、各会員にてご負担ください。

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学経済学部 森岡裕研究室内 北東アジア学会第6期役員選挙管理委員会 宛

第13回学術研究大会報告

今大会より、これまで『環日本海研究』に掲載されていた報告・コメントは、「つうしん」に座長報告の形で掲載することになりました。これは、学会誌編集委員会としては、「大会報告 投稿」の流れを加速するためには、その紙幅を確保する必要があり、また、これまでの編集委員会でも大会の記録記事掲載に相当の労力が割かれていたなどの反省点を踏まえた変更です。

第2分科会「政策」

座長 松野周治(立命館大学)

第1報告「中国辺境開放都市に関する研究 琿春を対象にして」金玄(東洋大学・院)・金子彰(東洋大学)。報告は金玄氏によってなされ、1992年以降中国国務院が批准した17の辺境開放都市から4つを選び、琿春の特徴をSWOT分析により検討した。そして、良好な立地条件にも関わらず、開発が進まない理由として、道路などインフラ整備の遅れと多国間協力の困難さなどを指摘した。報告に対して予定討論者の

服部健治氏は、琿春研究の重要性を確認しつつ、辺境都市間の比較では、北朝鮮との近接という琿春の特殊性に対する指摘が十分でないこと、SWOT分析では、長春の発展を考慮に入れ、中継貿易の可能性なども検討すべきであると指摘した。フロアからも、ロシアマーケットの重要性を検討すること、周辺国・地域から見た琿春の重要性を検討することなど、報告の意義を認めつつ、今後の課題について、さまざまな重要

な指摘があった。

第2報告「冷戦後の日中関係の新たな枠組みの模索と経済関係の位置づけに関する一考察」海老原毅(富山商船高等専門学校)。報告は1989年後半以降の日中関係を中国の決議や報告、新聞記事などを用いて、3つの時期(～92年10月、～96年11月、96年12月以降)に区分し、冷戦以降、中国が日中関係を自国の大国化戦略の中に位置づけていたこと、経済関係は主要な柱であるが、中国の経済発展に伴い環境問題など共通の利益が着目されていったこと、相手国に対する国民感情が、日中関係に影響を及ぼしていることなどを明らかにした。予定討論者の竹村卓氏は、膨大な資料の読み込みなど、報告者の労力に敬意を表した上で、中国が日中関係を多国間あるいは国際的枠組みの中に位置づけているのに対して、日本が2国間(バイ)の関係としていること、日中関係を国際的枠組みの中で捉えることに関して、松本重治がかつて「上海時代」において、日中関係は日米関係であると述べている、との紹介がなされた。

第3報告「EUの近隣諸国政策と越境地域協力」高橋和(山形大学)。報告は2007年から開始されたEUの近隣諸国政策(ENP)の越境地域協力(CBC)を中心に、欧州における越境地域協力の制度化のもつ問題点を検討した。1990年の補助金導入は、地域間協力を活性化し、CBCの制度化に大きく寄与したものの、CBCがEUから資金を獲得する道具化するなどの問題点が生じ、ENPが実施され、民主化や環境問題、国境管理の強化などでEUと協力することを条件にEUが援助することとされたが、ローカルなアクターが育たないという

問題点等がなお存在する。こうしたEUの経験を踏まえ、環日本海地域でも越境地域協力で国家がどのように関与すべきかについて検討する必要があるとされた。この報告に対して、予定討論者の臼井陽一郎氏はENPを見すえながらCBCを位置づけた本研究の重要性を指摘した上で、EU域内と域外でCBCの展開に違いがあるか質問した。質問への回答は、域外のCBCは域内に比べて、破綻するケースが多いなどという回答であった。

第4報告“Energy Cooperation Impact on Integration: EU Experience s Applicability for Northeast Asia”(統合に対するエネルギー協力の影響力:EUの経験の北東アジアに対する適用可能性)Elena N. Shadrina(新潟大学・院)報告では、北東アジアの統合においては、EU統合の歴史と同じようにエネルギー協力が重要な役割を果たすという観点から、EUと北東アジアの共通点と相違点を再確認・整理した上で(統合や協力に関する広範囲の要素が整理され、統一された表などで提示された)、北東アジアエネルギー協力の諸モデルの検討がなされた。この報告に対して、予定討論者の久留島守弘氏より、北東アジアにおけるエネルギー協力の重要性と報告の意義を強調するとともに、多文化共生型の協力モデルや、開放的統合など、EUの経験を北東アジアに適用する際の論点が提起された。なお、本報告並びに討論は英語でなされた。

韓国東北亜経済学会参加報告

さる2008年2月19日、ソウルの延世大学では大掛かりの合同研究大会が開催された。韓国の経済学関連のすべての学会が一堂に集まって、学会毎のブースのもとで通常の研究報告会を行うことになっていた。韓国東北亜経済学会への派遣という位置づけで参加した筆者らには、この様子がどうも奇妙に思われたが、山田報告(「大学のない街」舞鶴での産学官連携の挑戦 「弱い紐帯」に着目した一試論)と李報告

(「中国独立系自動車メーカーの台頭と奇瑞モデルの構造)を無事に終えることができた。

ただ、今回の出席を通して、こうした恒例のミッションによる日韓交流



流においては幾つかの課題が浮き上がっている。まず、韓国

李泰王(愛知大学)・山田一隆(常任理事・事務局長/龍谷大学)東北亜経済学会は、役員交代が毎年行われる。これは、韓国の社会科学系学会は通常学会役員の任期を1年としていることの例外ではない。この場合、外国との付き合いや引継ぎが不十分となる可能性があることだ。今一つの問題は、学際的学会の日本側と韓国側との間の関心テーマの乖離を挙げることができる。言語の問題があるとはいえ、相互の連携が、「大会への相互参加」にかかる連絡調整が中心となっていることを越えた「付き合い方」の論議を日韓の学会で高める必要があるだろう。

さて、学会開催の数日前に、韓国国宝第1号の南大門が焼失した。たいへん痛ましい放火事件である。焼失した南大門跡は、白い工事用の仮囲いで覆われ、そこで泣き崩れるソウル市民の姿も見られた。再建にかかり、韓国当局の努力もさることながら、本学会が寄与できることを会員各位の間でも論議が高まることを願わざるを得ない。

北東アジア学会学生奨励賞授与について

今年度の北東アジア学会学生奨励賞は、富山商船高等専門学校 5年 (=当時)の沼田早苗さんの卒業研究「ロシアにおけるユダヤ人問題 ユダヤ人政策と移住問題を中心に」に授与された。同研究は、「ロシアにおいて近年人口減少が顕著であるユダヤ人に着目し、人口減少の原因をソ連時代の政策とソ連崩壊後の移住政策の観点から分析をおこなった。ソ連時代の反ユダヤ政策によりソ連崩壊後ユダヤ人が大量に海外へ移住したが、その結果主な移住先であるイスラエルでも経済や住居など多様な問題を引き起こしていることが明らかになった。さらに現在のロシアにおけるユダヤ人の生活や移住に対する意識の変化を明らかにするため、1995年と2004年にロシアでユダヤ人対象に行われた調査を分析した。これらの分析の結果、近年政府による反ユダヤ政策は行われていないものの、未だ民衆レベルで残る反ユダヤ主義的思想の意識改革の必要性を導き出した。」というものであり、

「ロシアにおいて根深い問題であるユダヤ人問題を取り上げて分析をおこない、今後のありかたについて提言をおこなった本研究は、北東



受賞を喜ぶ沼田早苗さん

アジア諸国に対する研究を深めるものである」と評価した。沼田さんは、ロシア語文献の講読にも挑戦し、卒業研究を完成させたとのことである。受賞の喜びを沼田さんは、「一年半、一生懸命に研究に取り組んできて、今回このような賞を貰えたことを本当に嬉しく思います。ロシアだけでなく、世界全体で民族の衝突が起こっていますが、論文執筆を通じ、そのようなことが本当になくなって欲しいと願うようになりました。自分もこれから、少しでも良い世界になっていくよう貢献できればと思っています。」と受賞の喜びを語った。

北東アジア学会優秀論文賞の推薦について

「北東アジア学会優秀論文賞」は、本学会の若手研究者の育成と本学会の研究水準のいっそうの向上を企図しており、若手研究者のみならず、諸兄の若手研究者に対する教育・研究指導のいっそうの充実を期待して、学会設立 10周年を記念して創設されました。今年度対象となるのは、

1. 2007年6月1日から2008年5月末日までに発表された単著論文。
2. 論文発表時、年齢が40歳未満、または大学院生。

3. 『環日本海研究』掲載論文、または他の査読付き論文。の条件をすべて満たすものです。なお、自薦・他薦を問いません。ふるってご推薦ください。推薦締切は2008年6月30日です。

推薦する会員は、推薦書の様式を学会ホームページ (<http://www.mirec.org/jsrs/form07.doc>) からダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局までお寄せください。また、別途、当該論文の現物 5部を学会事務局までご郵送ください。

総会・理事会・常任理事会議事

第5期第7回常任理事会報告

第5期第7回常任理事会が、2008年4月19日(土)14:00から、龍谷大学深草学舎(京都市伏見区)にて、常任理事、名誉会員計5名が出席して開催された。議題は以下の通り。

[1] 事務局消息

山田一隆事務局長から、2007年12月から当日までの事務局の主な業務内容が報告された。

[2] 学会誌編集委員会から

今村弘子学会誌編集委員長から、『北東アジア地域研究』第14号の編集に関する進捗状況について報告があった。13篇の応募があり、現在査読中とのことであった。また、新雑誌名となることから、表紙のデザインを一新することが提案され、デザイン案が了承された。

[3] 北東アジア学会優秀論文賞について

山田一隆事務局長から、今年度北東アジア学会優秀論文

賞についての対応が報告された【詳細は本紙 4 ページ】。また、同選考規定および細目規定・応募要領について、「環日本海学会」を「北東アジア学会」と読み替えることが了承された。

[4] 第 14 回学術研究大会について

高橋和担当理事から、第 14 回学術研究大会の準備状況について文書報告があった【詳細は本紙 1 ページ】。

大会前日には、第 5 期の最終理事会を行い、韓国東北亜経済学会からの招聘者に対する歓迎宴を開催することも確認された。

[5] 第 6 期役員選挙について

山田一隆事務局長から、第 6 次役員選挙について、その準備状況が報告された【詳細は本紙 2 ページ】。また、同選出規定および実施細則について、「環日本海学会」を「北東アジア学会」と読み替えることが了承された。

[6] 第 15 回学術研究大会開催候補地について

山田一隆事務局長から、2008 年度会員総会において、新潟地域を候補とすることが決定されたが、その後の対応について報告があった。

[7] 学会財政・会員拡張について

山田一隆事務局長から 2007 年 10 月 1 日から 2008 年 3 月 31 日までの予算執行状況(中間決算)について報告があった。その中で、問題点として、1)会員数ベースの会費納付

率が依然として低いこと、2)とりわけ院生会員の納付率が低く、流動性も高いため、住所不明者リストに入りやすいこと、などが報告された。

また、会員拡張について、名称変更を機に、個人の会員(一般、院生を問わず)の会員拡張を積極的に行うため、「つうしん」今号に新しいリーフレットを同封し、勧誘活動を積極化することを告知することが確認された【詳細は本紙 6 ページ】。また、賛助会員の拡張にも取り組むべきであり、名称変更の「おしらせ」を兼ねた勧誘文書を関係機関・組織・団体に送付することが了承された。

[8] その他

(1) 入会申請の承認、会員の退会に関する報告

山田一隆事務局長から、入会申込を受けた者 3 名、退会申請を受けた者 7 名について報告があり、入会申込を受けた者の入会が了承された。

(2) 次回の予定

次回は理事会

とき 2008 年 6 月下旬

ところ 京都市内

議題 第 6 期理事選挙結果について

第 14 回学術研究大会について

第 15 回学術研究大会開催校について

その他

会員情報

新入会員 3 名

一般	曹 明玉	早稲田大学大学院社会科学部	推薦人: 多賀秀俊、森川裕二
一般	朱 永浩	財団法人環日本海経済研究所調査研究部	推薦人: 若月章、三村光弘
一般	川島 哲	金沢星稜大学経済学部	推薦人: 乃村晃、方斌

2008 年 4 月 19 日 第 5 期第 7 回常任理事会承認

退会者 7 名

大熊 孝	高梨 敬子	渡部 育子	高橋 蔚	村山 実
船橋 健二	島津 光夫			

2008 年 4 月 19 日 第 5 期第 7 回常任理事会報告

住所不明者 4 名

学会事務局では、日常的に会員のみなさまの連絡先・所属等の変更・更新を受け付けており、その追跡にも注力しておりますが、残念ながら、現在、以下の会員の連絡先が学会事務局で把握できておりません。会員のみなさまの中で最新の連絡先をご存知でしたら、学会事務局までご連絡いただければ幸いです。

一般	武田 洋平	東海大学平和戦略国際研究所
一般	李 勤	
海外	Valentina Grishina	
院生	Lamacheva Ioulia	新潟大学大学院現代社会文化研究科

事務局からのお知らせ

会費納付・会員拡張について

[1] 会員の会費納付状況・学会則第6条について

参考：環日本海学会会則・第6条「本会を退会しようとする者は、書面をもって退会を本会に通告すれば退会することができる。会費を2年間滞納した者は、理事会において承認の上、退会とみなす。」

現行では4年滞納(一般会員の場合、31,000円以上)で、学会誌の送付を停止し、「つうしん」の発送のみとする暫定措置をとっていますが、2008年度からの会費額改訂にあわせて、学会則第6条に沿って、上記該当者の退会扱いを積極的に行うことにしています。本報同封の会費請求書をご確認の上、至急納付いただきますようお願いいたします。

[2] 会費納付のお願い

郵便振替口座 00990-3-117008
環日本海学会

2008年度年会費	一般	10,000円
	院生	5,000円
	賛助	20,000円
	特別賛助	100,000円

学会の情報化について・再報

[1] 学会員メーリングリストの運用について

学会事務局では、会員のみなさまの情報交流の機動性を高めるべく、学会員の一斉同報メールシステムを構築しています。

環日本海学会メーリングリスト jsrs_all@mirec.org

登録メールアドレスは、現在「会員名簿」に記載されているメールアドレスを基本としています。現在の登録者数は195で、全会員のおよそ半数です。メールアドレスを記載いただけない会員のみなさまには、これを機会にメールアドレスの記載をご検討いただければ幸いです。ご連絡は学会事務局までお願いいたします。

[2] 「環日本海学会つうしん」の電子配信について

会員による新刊書のご紹介(情報提供依頼)

学会誌編集委員会(委員長:今村弘子会員(富山大学))では、「著書紹介」を『北東アジア地域研究』に掲載するために、会員が著した刊行本についての情報提供をお待ちしています。自薦・他薦を問いませんので、ふるって情報提供いただければ幸いです。情報提供先は、学会事務局、または、学会誌編集委員会まで。

つうしん本号に同封の会費納付のごあんないで金額(過年度未納分がある方は併せてご請求申し上げます)をお確かめの上、同封の郵便振替払込票をご利用ください。(払込手数料は会員負担)。名称変更後も口座番号、名義人に変更はありません。

[3] 会員拡張の重要性

このところ会員数は、横ばいしないし漸減の傾向にあり、学会組織として、本学会を通じた学究・交流活動を促進し、発展させていく観点から、また、学会経営の財政的安定化を図る観点から、新入会員の勧誘につき、会員のみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。「つうしん」今号に学会のご案内リーフレットを同封いたしました。会員諸兄における会員拡張活動への積極的なご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、「つうしん」今号に同封した本リーフレットは学会ホームページ(<http://www.mirec.org/jsrs/leaflet.pdf>)からもダウンロードできますので、ご活用いただければ幸いです。

学会事務局に電子メールアドレスをお知らせいただいている会員のみなさまには、これまで紙媒体として郵送していましたが「環日本海学会つうしん」の配信を、第29号から環日本海学会メーリングリスト jsrs_all@mirec.org を活用した電子配信(pdf形式)に切り替えさせていただくこととしました。

電子配信への切り替えによって、事務局の印刷・郵送経費および手間の軽減もさることながら、発行後すぐに配信するため、紙媒体を郵送するよりも迅速にお手元に届けることができますようになります。

電子メールアドレスをご登録の会員の方で、従前同様、紙媒体の郵送をご希望される方は学会事務局までご連絡ください。